

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもさぼーとセンター きらめき北谷		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 4日		～ 令和7年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 4日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団療育グループ(5~7名)に対し、職員4~5名で手厚い対応、時には個別対応も取れるよう活動計画、運営することにより集団の中でも個々の発達段階やベースに合わせながら活動プログラムの提供ができる。	こどもたちが意欲的に参加できるような活動プログラムの企画、実施。運動プログラム、集団あそび(ルール理解やコミュニケーション)などを通して楽しみながら生活する力を育めるよう支援している。	小集団や手厚いサポートがある環境ならではのプログラム内容の検討、工夫を検討していきたい。
2	理学療法士、言語聴覚士、保育士、児童指導員とさまざまな専門職の連携のもと療育の提供ができる。	療育の振り返りを行ないながら、こどもたちが楽しく意欲的に参加、取り組めるよう環境設定や活動の工夫を行っている。毎月事業所内勉強会の時間を設け、ケース検討やあそびの工夫を考える時間を設けている。	ケース会議や勉強会の定着を図っていきたい。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスを行っていないため、通所に関しては保護者の皆さまのご理解とご協力を得ている。	送迎に対応できる人員の配置が難しいこと。離れた地域から通所してくれている児童はより難しくなる。	保護者の皆さまのご協力を得ながら、要望に応じて利用日の振替を行ったり、送迎サポートの方法(地域資源の活用など)、通所しやすい工夫の検討を行っていく。
2			
3			